

## 中秋の名月

2022.9.12 校長 西谷 秀幸

先週の土曜日の月は「中秋の名月」でした。「十五夜」とも言われている秋のとてもきれいなお月様でしたね。見た人はいますか。

日本のいろいろな場所でこの「中秋の名月」を見ることができたので、ホームページに写真が載っていました。いくつか紹介します。

金曜日には、給食にも出たように、この「中秋の名月」の日には、「月見団子」と言って、お米で作った団子を月に見立てて、収穫のお祝いをします。秋は、お米の収穫をするから「月見団子」をお供えするようになったのだそうです。

ちなみに、なぜ「十五夜」ともいうのかというと、今は太陽の動きから1年間のカレンダーを作っていますが、昔は月の動きからカレンダーを作っていて、月は少しずつ満ちて3日目には「三日月」になり、15日目に「満月」になります。そして、そのあと、少しずつ欠けていって30日で見えなくなります。その30日間のサイクルで、ちょうど満月になるのが15日目なので、「十五夜」というのです。

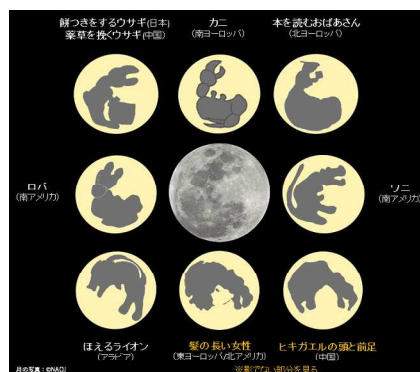
さて、皆さんは、この満月のお月様の中に、何が見えますか。知っての通り、昔の日本人は「うさぎが餅をついている」と想像しました。なるほど…言われて見れば分かる気がしますね。お隣の国、韓国でも同じように「うさぎが餅をついている」と想像しましたが、中国では、お餅ではなく、「薬草」といって薬を作るのについていると想像しました。

では、そのほかの世界中の国々では、満月をどのように想像しているのでしょうか。

ヨーロッパの南の方では、ウサギではなくて、「カニ」がいますと考えました。また、同じヨーロッパでも北の方の人たち「本を読む女の人」と考え、ブラジルなどの南アメリカでは「ロバ」や「ワニ」の姿を想像しました。

先週、話をしたカタールなどのアラビアでは、向きを変えて「吠えているライオン」を想像し、ヨーロッパの東の方やアメリカでは「髪の毛の長い女性」の姿を想像したそうです。

皆さんには、どんな風に見えますか。



これで朝会の話が終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

## 〈先生方へ〉

2学期も第3週目に入りました。先週から運動会の特別時間割が始まり、低中高の入れ替え制ではありますが、3年ぶりに土曜日に行く運動会に向けて、学校全体が大きな行事に向かって取り組んでいく姿にコロナ前の活気が見られます。とはいえ、朝夕は涼しくなってきたものの、まだまだ晴れると暑くなる日が続きます。コロナの新規感染者数も減少傾向にあるので、運動時にはマスクを外すことを促すなど、熱中症対策をしながらの指導をよろしく願います。

また、生活指導連絡会でもお伝えしましたが、挨拶と登下校については、1学期に比べて課題が見られます。「できている児童をほめる」ことにより、全体の底上げができるようによろしく願います。

さて、今日12日(月)は、1年生による校内研究の研究授業です。入学から約半年が経った1年生、夏休みが終わって一回りたくましくなった1年生の姿が、楽しみです。今週末は、学校公開もあります。学期初めで、大人も子供も疲れが出てくるかと思いますが、よろしく願います。

### 【資料】 「中秋の名月」とは…

中秋の名月とは、旧暦の8月15日にお月見をする日本の風習を指します。旧暦では7月を「初秋」、8月を「仲秋」、9月を「晩秋」と区分としており、「仲秋」が旧暦8月の全体を指すことに対し、「中秋」は秋全体の中日を意味し、旧暦8月15日のみを指します。その晩に上がる月を「中秋の月」と呼んでいたのが、中秋の名月の由来の始まりです。秋が深まり、空気が冷たくなる頃には、秋晴れが続いて空も高く見えます。夜に見える月もきれいなことから、この頃に上がる満月を「中秋の名月」と呼ぶようになったのです。この中秋の名月の祭事は、もともと中国から伝わり、日本では平安朝以降に貴族の間で盛んに催されました。江戸時代には一般庶民の間でも広く行われるようになり、次第に現在の形に変化しています。

ちなみに、「中秋の名月」は旧暦では8月15日ですが、新暦を採用している現在では毎年日付が変わります。月の満ち欠けをベースとする旧暦では満月になるのが毎月15日と決まっていたのですが、地球が太陽を回る周期をベースとした新暦では、満月の時期が年によって異なるからです。中秋の名月は9月の上旬頃になることが多く、2022年の中秋の名月は9月10日、満月になる時間は18:59とされています。

また、中秋の名月に似た言葉に、「十五夜」がありますが、実は中秋の名月と十五夜は同じもので、「十五夜」と呼ばれるのは、旧暦の8月15日だったためです。旧暦では毎月1日が新月で、15日が満月もしくは、ほぼ満月でした。新暦と異なり、旧暦では1か月が月の満ち欠けの周期に合わせて29日ないし30日で計算されており、3日には三日月、15日には満月を毎月見ることができたのです。

さて、お月見のお供え物といえば、月見団子ですが、月見団子はその名の通り、丸い団子で月を表現していると言われていています。また、「十五夜」は別名「芋名月」とも呼ばれ、里芋やさつまいもなどの芋類を供える地域があります。これは稲作以前の、里芋などの芋類を主食として食べていた頃に、「十五夜」に秋の収穫物である里芋を供えていた名残である説が有名です。